

「山梨県の日本酒で乾杯 15歳の新たな挑戦」

～初めての商談会を開催～

山梨県酒造組合(北原兵庫会長)は、10月1日山梨県防災新館やまなしプラザにおいて、日本酒の日に商談会、日本酒セミナー、試飲会を3部構成で開催した。

これまで組合では、秋の試飲会を開催してきたが、今回は組合員15社が蔵自慢の逸品を持ち寄り、合計41

銘柄の山梨県産酒を集結した商談会を初めて行った。商談会には、県内外の卸店・小売酒



商談会風景

販店・大手スーパー等の仕入担当者約40名が会場を訪れ、各ブースで試飲をしながら好みの酒を探し、商談を進めていた。

小宮山事務局長は「初めての商談会だったが、大きな手応えを感じた。山梨県の日本酒の知名度をあげるために、日本酒の美味しさを先ずは県内の皆さんにPRしていきたい」と話した。

また、山梨県においても年々日本酒の消費量が減少していることから、組合では3年前から甲府駅周辺で県産の日本酒が呑める店の地図等も作成し消費拡大に努めてきた。この度、消費拡大の一環として、山梨県内で作られた日本酒を始めとするお酒を常時3銘柄以上提供する県内の飲食店を「県産酒が呑める店」として認定する制度を発表し、この日スタートした。

同時に行われた日本酒セミナーでは、杜氏から「秋は春先に生まれた新酒がひと夏を越し、熟成して飲み頃となる『秋あがり(ひやおろし)』の時期です。豊穡の秋にふさわしい穏やかで落ち着いた香りを放ち滑らかな口あたりを味わって欲しい。」と説明があり、約400名以上の一般消費や愛飲家などが参加した試飲会では、新酒とは一味違うこの時期限定の日本酒が味わわれ、盛会の内に終了した。

また、組合では11月14・15日の県民の日に、小瀬スポーツ公園で試飲・販売会を開催する予定。



県産酒が呑める店